

■感染対策委員会

当院の基本理念である「患者さんにとって最も良い医療を提供する」を実現するため、院内感染により患者さんが様々な不利益を被ることがないように、また同時に当院の職員が針刺し事故などによる感染で被害を被ることがないように感染予防対策を講ずることを目的として平成3年10月に本委員会が設置された。近年は月1回定期的に開催しており（最終週の水曜日・・・院内会議に引き続いて）、本年10月で通算第118回を数える。メンバーは各所属の長で構成されている。

活動内容は下記の如くである。

1. MRSA、結核菌などを含めた検出菌の月毎の報告（サーベイランス）
2. 院内感染発生の監視と対策
3. 院内研修会の企画、実施
4. 感染対策マニュアルの追加、改定
5. その他

当院では本年医療機能評価の更新を受診する予定であり、これを機会に感染対策マニュアルを見直し、一部加筆するとともに、大幅なスタイルの改訂を行った（総論と各論の2部構成）。

尚、平成15年4月より、感染対策委員会（ICC）の下部組織として、少人数からなる感染対策チーム（ICT）を発足させ、機動性のある実行部隊として機能させている。年1回は院内ラウンドを実施し、感染対策の実効を上げるべく努力している。

本年7月より職員の感染対策の意識をさらに高める目的で、月1回感染対策チェックリストにて自己点検を義務付け、ICTで分析した上で、対応策を検討している。

平成16年度の感染対策に関する院内研修会として6月29日下記を行った。

講師：ファイザー製薬医薬学術企画部 山本正伯（まさき）氏

テーマ：院内感染対策

現在までのところ呼吸器内科の肺癌部門と呼吸器外科が札幌南三条病院へ移転し、本年5月よりは療養病棟が新たに60床設置されたという病院内容の変更があったが、感染対策上の変革を余儀なくされる事態は生じていない。

文責 田垣 茂